

2026 年 7 月期 第 2 四半期（中間期）決算説明会 質疑応答集

2026 年 3 月 23 日に開催されました、2026 年 7 月期第 2 四半期（中間期）決算説明会に対する、ご出席者の皆様にいただきましたご質問は下記のとおりです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすい一部に加筆・修正をしております。

Q 1. M&Aへの取り組みの現状を教えてください。

A 1. （金武祚）現状は、小型案件が 2 件、大型案件が 2 件で、すべて国内の会社との交渉を進めております。本
当にシナジーがあり、当社のグループに入って確実に成長していけるかを重要視しています。現在、非常に重要な
段階に入っていると認識しております。

Q 2. 「新価値創造 1Kプロジェクト」が達成されたのちには、年間どの程度の研究開発費を投下できる会社になる のでしょうか。

A 2. （金武祚）今後、創薬分野で開発が加速し、相応の初期投資が必要になる可能性があります。年平均のパ
ーセンテージは申し上げにくいのですが、製薬企業における一般的な研究予算の水準まで費用を計上することも
考えられます。

（縄野）売上高に対するR&D費の比率 10%というのは一般論としてありますが、弊社はこれから開発プロジェ
クトを立ち上げて臨床試験を行っていく段階です。そのため、パーセンテージというよりも、成功確度を上げる取
組みに必要な予算を計上していきます。現在の見込みでは、当社全体の事業利益でまかなえる範囲と考えてい
ます。

Q 3. 次期中期経営計画の発表時期について教えてください。

A 3. （金英一）今期中に発信できるよう準備を進めています。成長戦略としては、食品、化粧品、医薬品に加えて、
アグリ、繊維、電池材料の 6 つの分野で伸ばしていくという軸は変わりません。NEDOからの 51 億円の研究費に
よって卵殻膜事業が非常に加速したと実感しており、適切な規模の研究開発投資で成長を促していきたいと考
えています。

（金武祚）補足として、食品、化粧品、創薬、バッテリー、アグリ、繊維と様々な分野を手掛けている中で、「ど
れに注力するのか？」とよく聞かれますが、「すべてに注力する」と答えています。行き詰まらないよう、バランスを取り
ながら進めていますが、これら全てのテーマに共通しているのが「卵のサイエンス」です。誰もが知っている卵から、誰
も知らなかった価値をつくる。大化けできると考えています。資金に限りもあるため、金融機関とも相談しながら進
めてまいります。

Q 4. バイオメディカルのパイプラインについて、「CasMab A」と「CasMab B」は、ライセンスアウトを考えているということでしょうか。

A 4. (縄野) 基本的にはライセンスアウトを考えております。ただし、価値を上げていくためにどのタイミングでライセンスアウトするか、あるいはどのような契約形態とするかは、相手先と協議しながら進めていきたいと考えております。

Q 5. 指定難病カダシルに対する治療薬「アドレノメデュリン」は、ファーマーズが治験も製造販売承認の取得も目指し、最終的に自社で製造・販売するというのでしょうか。

A 5. (縄野) 選択肢のひとつとして、自社販売を考えております。国立循環器病研究センターとは今後、どのように取り組んでいくかを協議しており、その結果次第ですが、自社販売も検討いたします。

Q 6. 自社での医薬品の販売まで行う場合、治験のノウハウや製造販売承認の申請・取得のノウハウが必要になりますが、現状ファーマーズにそのノウハウはあるのでしょうか。

A 6. (縄野) 現状で十分に揃っているわけではありません。そのため、必要なノウハウを補完できるような体制を構築していく計画です。国立循環器病研究センターが主導して、すでに探索的臨床研究を実施しているため、治験の運営に問題はないと考えています。製造販売については、当社が協力する形を想定しており、不足している機能やノウハウは互いに補完していく必要があると認識しています。

出席者

代表取締役社長	金 武祚
専務取締役 研究開発・営業部門担当	金 英一
専務取締役 グループ経営統括担当	益田 和二行
取締役管理部門担当	東山 寛尚
取締役通販事業担当	鳥尾 公助
取締役創薬本部担当	縄野 雅夫
経営戦略部部長	原田 清佑

以上